

令和4年度事業報告書

I 経営状況の概要

1 一般財団法人移行後の動き

平成20年（2008年）12月1日に公益法人制度改革関連法が施行され、旧制度の特例民法法人である財団法人は、5年以内に新制度へ移行しなければならないことになった。

シティサポートよこすかは、「横須賀市及びその周辺地域において、地域住民の暮らしの向上と健康の増進を図るため、都市諸施設及び都市環境の整備に関する公益事業及び収益事業等を行い、もってこの地域の発展に寄与すること」を目的として、平成24年（2012年）5月21日付けで一般財団法人への移行認可を神奈川県から受けた。

一般財団法人又は一般社団法人への移行認可を受ける法人は、「従来の法人が税法上の優遇などにより内部留保した財産（公益目的財産）を公益の目的のために支出して零にする計画（公益目的支出計画）を作成しなければならない。」と定められている。

シティサポートよこすかは、財団法人横須賀市都市施設公社から一般財団法人へ移行する際、公益目的財産額に相当する約37億2,600万円を公益目的事業である「実施事業等会計」で支出することにより、13年間（年約2億8,700万円）で零にする計画を定め平成24年（2012年）9月19日付けで神奈川県から認可を受けた。

その後、体育会館や運動公園、自転車等駐車場等の指定管理事業、ポートマーケット運営等の地産地消事業、駐車場等の運営管理事業などを展開してきた。

しかしながら、ポートマーケット運営事業をはじめ収益事業における赤字が累積し、法人全体として公益目的支出（実施事業等会計）を抑制せざるを得ない状況が続いていた。公益目的支出を確実に遂行するためには収益事業を黒字化し、これを維持する必要がある。

そこで、平成30年度（2018年度）に新たに経営方針・経営計画を策定し、これまで展開してきた事業の枠組みを大きく見直し、経営基盤の確立を目指すこととした。

経営基盤の改善を前提に公益目的支出に新たなスポーツ・文化振興事業の実施、市への寄附（特定寄附）などを位置付け、年間支出予定額を変更（年約1億円）し、令和元年（2019年）9月1日付けで神奈川県から公益目的支出計画の正式な変更認可を受けた。

変更認可後初めての決算である令和元年度（2019年度）は、公益目的支出計画を達成するとともに収益事業等についても黒字に転換した。令和2年度（2020年度）は、コロナ禍により体育会館など多くの指定管理施設の運営において、施設の閉鎖や開館時間の短縮などの多大な影響を受けている。

その中において令和元年度（2019年度）に続き収益事業等は約1億2,600万円余の黒字となり、公益目的支出計画についても約1億4,500万円余と目標（約1億円）を大きく上回って達成することができた。それに伴い財団として初めて法人全体の黒字化（約960万円）を達成することができたのは特筆すべきである。

令和3年度（2021年度）は、ポートマーケットのリニューアル工事に伴う固定資産除却損等の計上や令和2年度（2020年度）分のコロナ禍による指定管理料の精算などの多額の経常外損失（△約1億5,600万円）があり、法人全体の収支である当期一般正味財産増減額はマイナス決算となった。

一方、本業の収支である評価損益等調整前当期経常増減額は、引続きコロナ禍による施設運営や事業の実施に影響を受けながらも、市役所北口駐車場や指定管理事業等において収益事業等の利益（約1億4,300万円）を確保した結果、令和2年度（2020年度）を上回る当期経常利益（約4,600万円）を計上することができた。また、公益目的支出計画も変更認可以降、3年連続で目標を上回る支出（約1億1,200万円）をすることができた。

令和4年度（2022年度）は、3年続いたコロナ禍も徐々に平常を取り戻したことから感染対策を十分に行いつつ公益目的事業であるCSYスポーツ・文化振興事業を積極的に展開した。また、延期となっていた「いちごよこすかポートマーケット」も、新たな運営事業者と定期建物賃貸借契約等を締結し、10月28日にリニューアルオープンした。

経営面では、世界情勢を反映して光熱費など諸物価の高騰や賃金の上昇があったものの、市役所北口駐車場事業が前年度を上回る増収増益となったことや、ポートマーケット事業が黒字となったことなどにより、評価損益等調整前当期経常増減額が約7,200万円の黒字、当期一般正味財産増減額が約3,400万円の黒字となり、一般財団に移行後、最大の黒字決算となった。

令和4年度に策定した第2次経営計画（2022～2026年度）により経営基盤の強化を目指す方針とした当法人は、更なる実績を積み重ねながら、今後またゆまぬ経営改善の努力を続け、経営の安定を確固たるものにしていきたいと考えている。

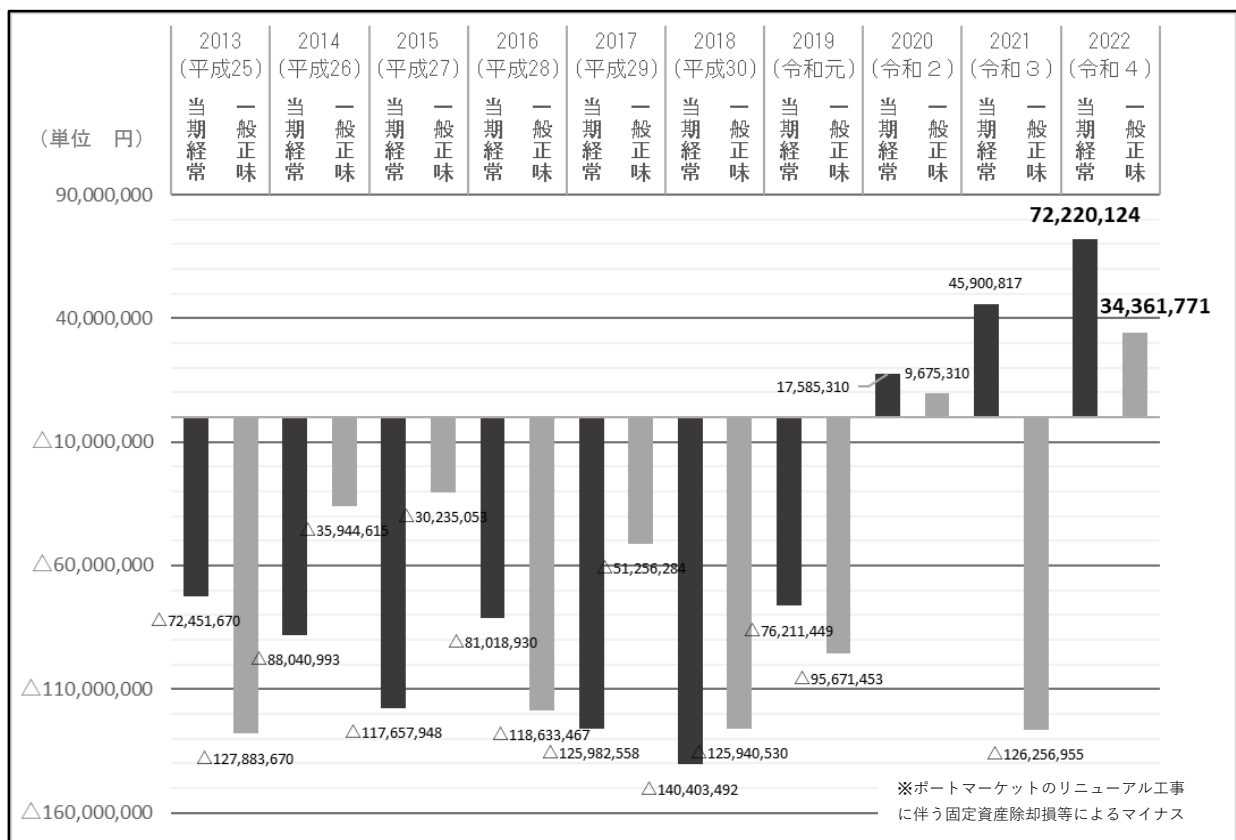
2 一般法人移行後最大の黒字を計上

平成24年（2012年）6月に一般財団法人に移行したシティサポートよこすかは、平成25年（2013年）3月から運営を始めたポートマーケット事業の赤字などが影響し、一般財団法人に移行以来、法人全体として赤字の状況が続いていた。前述のとおり、平成30年度（2018年度）に新たに経営方針を策定し経営改善に取り組み、令和3年度（2021年度）決算に公益目的支出を除く収益事業等（その他会計+法人会計）を「黒字」にするとした経営計画の目標を令和元年度（2019年度）決算で達成した。

また、令和2年度決算においては、コロナ禍において固定費の圧縮、さらなる業務の見直しにより、一般財団法人移行以来初めて法人全体の収支で黒字化を達成した。

令和3年度決算においては、経常外費用としてポートマーケットのリニューアル工事に伴う固定資産除却損等（約△1億3,400万円）の計上により法人全体の収支はマイナスとなったが、本業の収支を示す当期経常増減額は前年度を上回る利益（約4,600万円）を計上し、コロナ禍にもかかわらず堅調な事業運営を行った。

令和4年度決算においては、市役所北口駐車場の増収増益やポートマーケットの黒字化など、より一層の経営改善に取り組んだ結果、一般財団法人移行後、最大の黒字を計上した。



【凡例】
 : 【当期経常】評価損益等調整前当期経常増減額
 : 【一般正味】他会計振替前当期一般正味財産増減額

(単位 円)

		(公益目的支出) ①実施事業等会計 簿価ベース [時価ベース]	②収益事業等 (その他会計+法人会計)	当期収支 ①+②
2013 (平成25) 決算	評価損益等調整前当期経常増減額	△41,037,151	△31,414,519	△72,451,670
	他会計振替前当期一般正味財産増減額	△41,037,151	△86,846,519	△127,883,670
2014 (平成26) 決算	評価損益等調整前当期経常増減額	△37,883,218	△50,157,775	△88,040,993
	他会計振替前当期一般正味財産増減額	△37,883,218	1,938,603	△35,944,615
2015 (平成27) 決算	評価損益等調整前当期経常増減額	△30,684,182	△86,973,766	△117,657,948
	他会計振替前当期一般正味財産増減額	△30,684,182 (△30,684,182)	△654,944,979 (449,129)	△685,629,161 (△30,235,053)
2016 (平成28) 決算	評価損益等調整前当期経常増減額	△44,793,771	△36,225,159	△81,018,930
	他会計振替前当期一般正味財産増減額	△44,793,771	△73,839,696	△118,633,467
2017 (平成29) 決算	評価損益等調整前当期経常増減額	△59,528,487	△66,454,071	△125,982,558
	他会計振替前当期一般正味財産増減額	△35,601,996	△15,654,288	△51,256,284
2018 (平成30) 決算	評価損益等調整前当期経常増減額	△57,236,821	△83,166,671	△140,403,492
	他会計振替前当期一般正味財産増減額	△56,382,332	△69,558,198	△125,940,530
2019 (令和元) 決算	評価損益等調整前当期経常増減額	△115,435,001	39,223,552	△76,211,449
	他会計振替前当期一般正味財産増減額	△115,435,001 [△139,189,268]	19,763,548	△95,671,453
2020 (令和2) 決算	評価損益等調整前当期経常増減額	△108,685,711	126,271,021	17,585,310
	他会計振替前当期一般正味財産増減額	△108,685,711 [△145,695,846]	118,361,021	9,675,310
2021 (令和3) 決算	評価損益等調整前当期経常増減額	△97,485,627	143,386,444	45,900,817
	他会計振替前当期一般正味財産増減額	△86,267,175 [△112,493,971]	△39,989,780	△126,256,955
2022 (令和4) 決算	評価損益等調整前当期経常増減額 ※1	△102,759,649	174,979,773	72,220,124
	他会計振替前当期一般正味財産増減額 ※2	△102,759,649 [△102,759,649]	137,121,420	34,361,771

※1. 評価損益等調整前当期経常増減額：経常収益計－経常費用計

※2. 他会計振替前当期一般正味財産増減額：評価損益等調整前当期経常増減額＋評価損益等計
＋当期経常外増減額

- 平成30年度に策定した第1次経営計画では、令和3年度決算に評価損益等調整前当期経常増減額から公益目的支出を除いた収益事業等が0円以上となる「黒字」にすることを目標とした。また、令和4年度に策定した第2次経営計画では、公益目的支出が1億円以上、収益事業等が1億円以上で法人全体で「黒字」にすることを目標とした。
- 特定寄附・現物寄附の土地は、正味財産増減計算書では帳簿価額（簿価ベース）で算定し、公益目的支出計画では固定資産税評価額（時価ベース）で算定する。
- 平成27年度は、小川町駐車場売却損（△655,394,108円）を含む。
(△30,235,053円は小川町駐車場売却損を除いた額で、グラフはこの数字を用いている。)
- 一般財団法人移行後、財団法人横須賀市都市施設公社時の経理を含まない平成25年度以降の表としている。

3 4年続けて収益事業等の黒字化を実現

平成30年度（2018年度）に策定した第1次経営計画では、令和3年度（2020年度）決算において収益事業等を「黒字」にすることを目標とした。

黒字とは評価損益等調整前当期経常増減額から公益目的支出（実施事業等会計）を除いた収益事業等（その他会計+法人会計）が0円以上となることである。

事業の内容を精査し臨んだ令和元年度決算は、収益事業等が3,900万円余と黒字に転換するとともに、経営計画の目標を初年度に達成した。

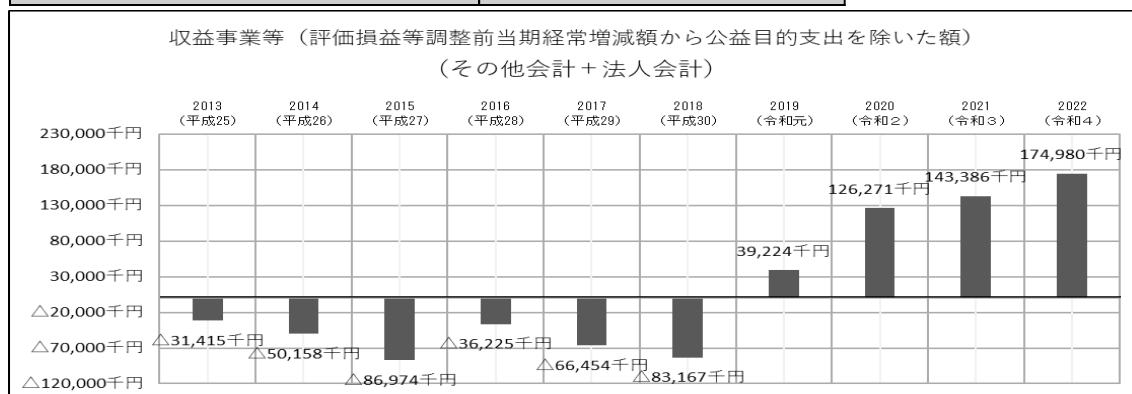
その後、収益事業等は令和2年度（2019年度）、令和3年度（2020年度）と、それぞれ前年度を上回る利益を計上した。そして、令和4年度（2022年度）決算では、更に利益を伸ばし約1億7,400万円の黒字を達成した。その主な要因は市役所北口駐車場事業の1億2,400万円余の利益に加え、ポートマーケット事業の約2,100万円の黒字などである。

	評価損益等調整前 当期経常増減額 (ア)	公益目的支出 (実施事業等会計) (イ)	収益事業等（評価損益等 調整前当期経常増減額から 公益目的支出を除いた額） (ア-イ)
2022（令和4）年度 決算	72,220,124円	△102,759,649円	174,979,773円

令和4年度（2022年度）に策定した第2次経営計画では、一般財団への移行に伴う公益目的支出を毎年度1億円以上とし、その使命を果たすための利益を収益事業等で1億円以上確保することを目標としたが、計画初年度に目標を達成することができた。

○収益事業等の推移（法人会計含む）

	収益事業等（評価損益等調整 前当期経常増減額から公益目的 支出を除いた額）
2013（平成25）年度 決算	△31,414,519円
2014（平成26）年度 決算	△50,157,775円
2015（平成27）年度 決算	△86,973,766円
2016（平成28）年度 決算	△36,225,159円
2017（平成29）年度 決算	△66,454,071円
2018（平成30）年度 決算	△83,166,671円
2019（令和元）年度 決算	39,223,552円
2020（令和2）年度 決算	126,271,021円
2021（令和3）年度 決算	143,386,444円
2022（令和4）年度 決算	174,979,773円



4 公益目的支出計画は4年連続で年間目標を達成

(1) 公益目的支出計画については、令和元年（2019年）9月に「公益目的事業、市への寄附（特定寄附）、継続事業」を3本の柱とし、年間支出予定額の変更（年 約2億8,700万円→年 約1億円）、計画期間の変更（13年間→41年間）の認可を受けた。

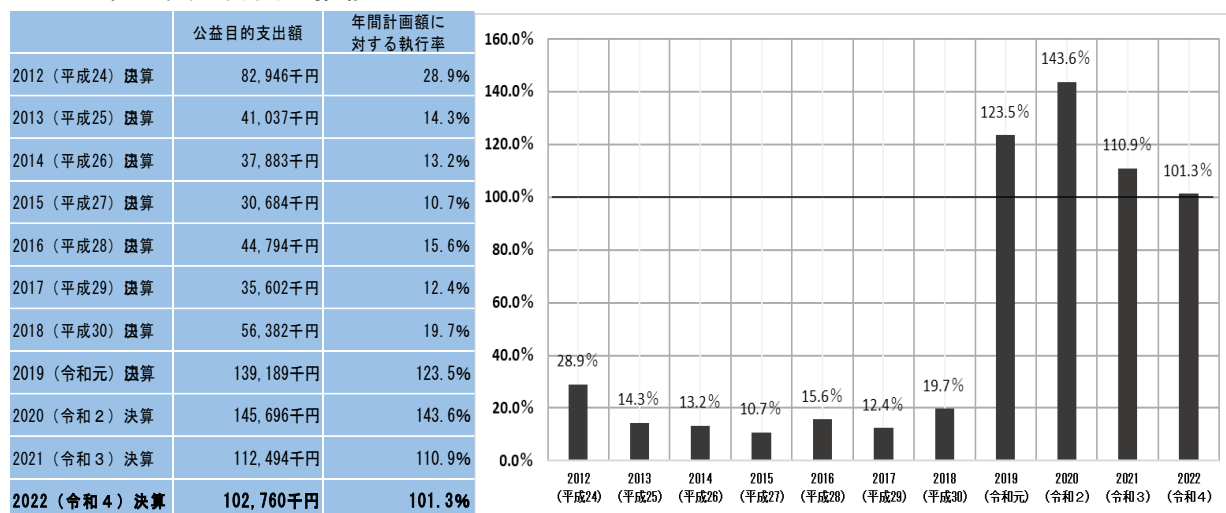
令和2年度（2020年度）及び3年度（2021年度）は、コロナ禍により大規模な集客を図る事業を開催することとはできなかったが、派遣型の事業やリモートによるコンサート、観客数を制限したコンサートを開催したり、感染対策を十分行ってスポーツ教室を開催するなど計画を上回る公益目的事業を展開した。

令和4年度（2022年度）は、コロナ禍で3年間中止となっていたスポーツ能力測定会を、支出計画変更後初めて開催することができた。また、スポーツ・文化振興事業をより積極的に展開し、「BMX学校訪問事業」、「電動車椅子サッカー体験会」、「ラジオ体操教室」などの新規事業のほか、リニューアルオープンした”よこすかポートマーケット”では、トップアーティスト指導セミナーの一環として、地元ゆかりのある音楽家が音楽文化の醸成を図り、音楽の素晴らしさを伝える Sunset Live（サンセットライブ）を開催した。

特定寄附は、より有効的に活用できるように市への指定寄附を増額した。

その結果、公益目的支出額1億276万円、年間計画額に対する執行率101.3%と4年連続で公益目的支出計画の年間目標を達成することができた。

○公益目的支出計画の推移



●公益目的支出額

当初計画額 年間目標 約286,735千円（平成24年6月1日から実施）

変更計画額 年間目標 101,445千円（令和元年9月1日から実施）

但し、令和元年度は年間目標 112,678千円

※市への現物寄附（土地）は令和元年度から3年度で完了し、4年度以降はスポーツ・文化振興事業など公益目的事業を強化して公益目的支出計画を実施していく。

(2) 令和4年度 公益目的事業の内訳

ア 【公益目的事業】 CSYスポーツ・文化振興事業 (約42,058千円)

(ア) CSYスポーツ能力測定事業

- ・スポーツ能力測定会 (8月1日)

(イ) CSYトップアスリート等指導セミナー事業

①CSYトップアスリート指導セミナー事業

- ・BMX学校訪問事業 (7月11日・12日)
- ・トップアスリート講師派遣事業 (8月26日)
- ・かけっこ教室 (9月11日・23日)
- ・大人のランニング教室 (10月25日・11月24日)
- ・大人のサッカー教室 (10月26日・11月18日)
- ・マリノスサッカー教室 (11月3日)
- ・電動車椅子サッカー体験会 (11月8日)
- ・横浜DeNAベイスターズ現役選手による野球教室 (12月3日)
- ・ラジオ体操教室 (3月19日)

②CSYトップアーティスト指導セミナー事業

- ・横須賀市市民大学さきがけ講座 (4月9日)
- ・リズムトレーニング (5月21日ほか月2回)
- ・トップアーティスト講師派遣事業 (6月28日・10月21日)
- ・横須賀美術館コンサート (10月1日・12月10日・3月25日)
- ・猿島イベント (11月5日)
- ・ヴェルクまつりコンサート (11月23日)
- ・ヴェルクロビーコンサート (12月17日・1月8日)
- ・ポートマーケットクリスマスコンサート (12月18日)
- ・ポートマーケットSunset Live (1月13日ほか月2回)

(ウ) CSYマリンスポーツイベント事業

- ・ウィンドサーフィン無料体験会 (11月12日～15日)

(エ) CSYスポーツ・文化団体等支援事業

- ・横須賀ユースサッカー大会 (CSY杯U17) (8月9日～11日)
- ・sukasuka-ippo観劇 (8月21日)
- ・CSY杯グラウンドゴルフ大会 (11月5日)
- ・CSY健康ウォーク (12月10日)
- ・秋山翔吾選手野球教室 (12月17日)
- ・なでしこサッカーフェスタ (1月7日)

(オ) スポーツ器具等整備促進事業

・キックバイク15セット寄附

イ 【市への寄附（特定寄附）】（約16,659千円）

(ア) 現金寄附（14,700千円）

(イ) 現物寄附（駐車券認証機、プロジェクター、会議室用椅子
アルミ製ステップ、和室用畳、絵本・玩具）

ウ その他（約44,043千円）

(ア) 【公益目的事業】 放置自転車対策及び自転車等駐車場事業

(イ) 【継続事業】 市役所北口駐車場事業

(ウ) 【継続事業】 中央斎場事業

(3) 公益目的支出計画執行状況表

【変更認可前】 公益目的財産額：3,725,848,851円 (A)

年次	年度	計画			実績			
		公益目的 支出額 (円) (ア)	公益目的財産 残額 (円)	支出累計 額に対する 執行率 (%) (イ)/(A)	公益目的 支出額 (円) (イ)	当年度計 画額に対 する執行 率 (%) (イ)/(イ)	公益目的財産 残額 (円)	支出累計 額に対する 執行率 (%) (イ)/(A)
1	H24	286,735,163	3,439,113,688	7.7	82,946,348	28.9	3,642,902,503	2.2
2	H25	286,735,163	3,152,378,525	15.4	41,037,151	14.3	3,601,865,352	3.3
3	H26	286,735,163	2,865,643,362	23.1	37,883,218	13.2	3,563,982,134	4.3
4	H27	286,735,163	2,578,908,199	30.8	30,684,182	10.7	3,533,297,952	5.2
5	H28	286,735,163	2,292,173,036	38.5	44,793,771	15.6	3,488,504,181	6.4
6	H29	286,735,163	2,005,437,873	46.2	35,601,996	12.4	3,452,902,185	7.3
7	H30	286,735,163	1,718,702,710	53.9	56,382,332	19.7	3,396,519,853	8.8
		2,007,146,141	1,718,702,710	53.9	329,328,998	16.4	3,396,519,853	8.8

【変更認可後】 公益目的財産残額：3,396,519,853円 (B)

年次	年度	計画			実績			
		公益目的 支出額 (円) (ウ)	公益目的財産 残額 (円)	支出累計 額に対する 執行率 (%) (ウ)/(B)	公益目的 支出額 (円) (エ)	当年度計 画額に対 する執行 率 (%) (エ)/(ウ)	公益目的財産 残額 (円)	支出累計 額に対する 執行率 (%) (エ)/(B)
8	R1	112,678,000	3,283,841,853	3.3	139,189,268	123.5	3,257,330,585	4.1
9	R2	101,445,000	3,182,396,853	6.3	145,695,846	143.6	3,111,634,739	8.4
10	R3	101,445,000	3,080,951,853	9.3	112,493,971	110.9	2,999,140,768	11.7
11	R4	101,445,000	2,979,506,853	12.3	<u>102,759,649</u>	<u>101.3</u>	<u>2,896,381,119</u>	<u>14.7</u>
12	R5	101,445,000	2,878,061,853	15.3	—	—	—	—
13~40	R6~33	2,840,460,000	37,601,853	98.9	—	—	—	—
41	R34	37,601,853	0	100.0	—	—	—	—
		3,396,519,853	0	100.0	<u>500,138,734</u>	—	<u>2,896,381,119</u>	<u>14.7</u>

【累計】 公益目的財産額：3,725,848,851円 (A)

年次	年度	計画			実績			
		公益目的 支出額 (円) (オ)	公益目的財産 残額 (円)	支出累計 額に対する 執行率 (%) (オ)/(A)	公益目的 支出額 (円) (カ)	当年度計 画額に対 する執行 率 (%) (カ)/(オ)	公益目的財産 残額 (円)	支出累計 額に対する 執行率 (%) (カ)/(A)
1~11	H24~R4	746,341,998	2,979,506,853	20.0	<u>829,467,732</u>	—	<u>2,896,381,119</u>	<u>22.3</u>

5 令和4年度 正味財産増減計算書会計別内訳表

(単位 円)

科目	合計 (ア+イ+ウ)	(公益目的支出計画) 実施事業等会計 (ア)	収益事業等 (その他会計+法人会計)	
			(収益事業) その他会計 (イ)	法人会計 (ウ)
1 経常収益計 ①	1,424,340,336	232,365,817	1,165,316,431	26,658,088
2 経常費用計 ④	1,352,120,212	335,125,466	997,147,511	19,847,235
3 評価損益等調整前 当期経常増減額 ⑤=①-④	72,220,124	△102,759,649	168,168,920	6,810,853
			174,979,773	
4 評価損益等計 ⑥	△24,780,000	0	0	△24,780,000
5 当期経常増減額 ⑦=⑤+⑥	47,440,124	△102,759,649	168,168,920	△17,969,147
6 経常外収益計⑧	4,280,846	0	4,280,846	0
7 経常外費用計⑨	17,359,199	0	17,106,356	252,843
8 当期経常外増減額 ⑩=⑧-⑨	△13,078,353	0	△12,825,510	△252,843
9 他会計振替前 当期一般正味財産 増減額 ⑦+⑩	34,361,771	△102,759,649	155,343,410	△18,221,990
			137,121,420	

- ◎ (公益目的支出計画) 市役所北口駐車場事業、中央斎場事業
 実施事業等会計： C S Yスポーツ能力測定事業、C S Yトップアスリート等指導セミナー事業
 C S Yマリンスポーツイベント事業、C S Yスポーツ・文化団体等支援事業
 スポーツ器具等整備促進事業
 放置自転車対策及び自転車等駐車場事業、特定寄附
- ◎ (収益事業) 市役所北口駐車場事業、森崎ほか駐車場事業、職員駐輪場事業
 その他会計： 物品販売事業、消防局庁舎事業、土地管理事業、ポートマーケット事業
 体育会館事業、不入斗公園他事業、追浜公園他事業、田浦梅の里他事業
 公園水泳プール事業、老人福祉センター事業、勤労福祉会館事業
 猿島公園事業、池上コミュニティセンター事業
- ◎ 法人会計： 法人運営全般

(参考指標)

1 安定性・収益性

■正味財産比率（正味財産／資産計）→ 89.9%

返済義務のない自己資本の割合から財務基盤の安定性を判断。

比率が高いほど借入金等の影響を受けない安定した財務基盤であるとの目安となる。

	令和4年度	令和3年度	令和2年度	令和元年度
正味財産	3,595,174千円	3,521,521千円	3,647,778千円	3,638,103千円
資産計	3,999,610千円	3,875,685千円	4,023,677千円	4,061,178千円
正味財産比率	89.9%	90.9%	90.7%	89.6%

■経常比率（経常収益／経常費用）→ 105.3%

経常外の事由を含まない収益・費用の比較により、財務の安定性を判断。

100%以上であれば、事業実施において黒字であることを示す。

	令和4年度	令和3年度	令和2年度	令和元年度
経常収益	1,424,340千円	1,344,476千円	1,257,260千円	1,262,530千円
経常費用	1,352,120千円	1,298,576千円	1,239,674千円	1,338,741千円
経常比率	105.3%	103.5%	101.4%	94.3%

■総資産当期経常増減率（当期経常増減額／資産計）→ 1.8%

総資本を活用し、どれだけの利益をあげたかを判断。

比率が高いほど効率的に利益をあげている目安となる。

	令和4年度	令和3年度	令和2年度	令和元年度
当期経常増減額	72,220千円	45,900千円	9,675千円	△95,671千円
資産計	3,999,610千円	3,875,685千円	4,023,677千円	4,061,178千円
総資産当期経常増減率	1.8%	1.2%	0.2%	△2.4%

2 硬直性

■流動比率（流動資産／流動負債）→ 538.6%

短期的な財務の健全性を判断。

一般的に流動比率が200%超であれば安全といわれる。

	令和4年度	令和3年度	令和2年度	令和元年度
流動資産	1,145,122千円	1,290,117千円	1,200,258千円	1,123,476千円
流動負債	212,619千円	175,707千円	194,922千円	236,967千円
流動比率	538.6%	734.2%	615.8%	474.1%

■借入金比率（借入金残高／資産計） → 0%

借入金の資産に占める割合を判断。

	令和4年度	令和3年度	令和2年度	令和元年度
借入金残高	0円	0円	0円	0円
資産計	3,999,610千円	3,875,685千円	4,023,677千円	4,061,178千円
借入金比率	0%	0%	0%	0%

□参考：資金残高 1,767,947千円（うち有価証券700,000千円）

※資金の範囲には、現金預金、未収金、前払金、仮払金、預け金、立替金、前払費用
棚卸資産、未払金（未払法人税住民税等含む）、前受金、仮受金、預り金
賞与引当金、退職給付引当資産、投資有価証券（額面）を含む。

経常的な費用 1,352,120千円

※ポートマーケットのリニューアル工事により、令和3年度末資金残高
1,944,502千円に対し、令和4年度末は176,555千円減少したが、総資
産額は123,925千円増額した